ポスター発表

2025年11月2日(日) 13:00 ~ 13:50 | 会場(金森産業ホール)
[P2] ポスター発表 #2

[P2-43] 過去の水害記録から見る洪水リスクの特徴 -近世の福岡県朝倉郡を対象に-

*宮崎 豪太[1] (1. 福岡工業大学大学院)

キーワード：地域防災、歴史災害

本研究は、近世の福岡県朝倉郡を対象に、水害記録と現代の洪水リスクとの関係を分析した。「福岡県近世災異誌」に記された1614〜1866年の水害記録を整理し、発生場所や被害状況、死者の有無を抽出してうえで、水害記録を洪水浸水想定区域、河川データ、平成29年7月九州北部豪雨の浸水範囲、古地図をGISで重ね合わせた。その結果、単純な被災回数集計では記録の残存状況に左右され、地域間で偏りが生じるため、実際の洪水リスクを正確に把握しにくいことが明らかになった。特に死者記録と現代の洪水被害発生地域は必ずしも一致せず、記録の残りやすさが評価を歪める要因となった。また、古地図との比較から、災害記録は人口密度や経済活動が高い地域で残りやすく、情報の充実度に差があることも判明した。

©一般社団法人地理情報システム学会